

近衛中学校 令和4年度前期学校評価アンケート

考察(全国学力調査生徒質問紙との比較から)

1. 学校教育目標【自主自律そして自治】への到達度

「社会や人とのつながりを大切にし 可能性を最大限に探究する たくましく生きる生徒」

Q. 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか(社会や人とのつながりを大切にする)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	計
全国	11.1	29.6	40.7
京都市	9.4	27.1	36.5
生徒	21.6	42.9	64.5

【考察】

昨年度に引き続き7月に学校運営協議会との連携授業で、京都大学防災研究所の矢守教授から本校3年生1教室にて授業していただき、他クラスはオンラインで防災学習を行った。矢守教授から「(防災の際)中学生として自分に何が出来るか?」という問かけが昨年に引き続き再度あったことで、2、3年生はもちろん生徒の意識が高く、全国の数値より大きく上回ることになったと考える。

Q. 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(可能性を最大限に探究する)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	計
全国	15.4	43.1	58.5
京都市	12.4	41.2	53.6
生徒	20.3	40.4	60.7

【考察】

今年度はスケジュールノートを変更した。よりより細かい項目で記入できたり、試験前計画を立てることができたり、宿題のことも細かく記入できたりと、自己管理ができるしくみを、学級でもサポートしながら活用することで、昨年度より大幅に数値がアップすることができた。今まで以上に、自分自身の学習の記録となるように促していくたい。

Q. 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している(たくましく生きる)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	計
全国	21.4	45.7	67.1
京都市	18.1	44.8	62.9
生徒	19.4	52.6	72

【考察】

例年、京都市が全国に比べ低い項目である。近衛中学校は学校行事や学級活動など、日々の教育活動の中で、失敗を糧とし、たくましく生きる生徒の育成を目指している。この数値も昨年度より上がり、日々の教育活動が失敗を恐れずに挑戦していく姿勢が着実に育っていると思われる。

2. 自己有用感について

(保護者、教職員アンケート含む)

Q. 自分には良いところがあると思いますか(生徒)

Q. 学校で子どもの自己肯定感は育まれている(保護者)

Q. 生徒の自己肯定感を高めるように指導方や活動の場の提供など努力している(教職員)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	計
全国	36	42.5	78.5
京都市	32.6	44.2	76.8
生徒	32.5	43.2	75.7
保護者	25.6	63.4	89
教職員	41.7	58.3	100

【考察】

例年、京都市が全国に比べ低い項目である。近衛中は昨年度から引き続き生徒指導の三機能の取組を進め、自己決定の場、自己存在感、共感的人間関係を授業や生活の場面で、それぞれの教職員が生徒の「自己指導力の育成」を図っている。本校も全国と比較して少し低い結果となっているが、京都ならではの、昔からの土地柄や人柄(奥ゆかしさや謙虚さ)がそのような結果を出しているようにも見てとれる。

Q、わたしは将来の夢や目標を持っている(生徒)

Q、子どもは将来の夢や希望を持っている(保護者)

Q、生徒は将来の夢や希望を持っている(教職員)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	計
全国	39.8	27.5	67.3
京都市	37.5	26.6	64.1
生徒	36.1	31	67.1
保護者	20.1	47.4	67.5
教職員	16.7	79.2	95.9

【考察】

例年、京都市が全国に比べ低い項目であるが今年度は全国と同等の数値となってきた。近衛中、岡崎中、錦林小、第三錦林小、第四錦林小、北白川小は3年前、六校合同研修会において、「自己有用感」が低いという結果を踏まえ、以来、「自己有用感」を高める取組を現在も各校で行っているその成果がでてきたと思われる。

3. ICTの使用について

(保護者、教職員アンケート含む)

Q、学習の中でコンピューターなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか(生徒)

Q、子どもはコンピューターなどのICT機器を学習に役立てている(保護者)

Q、生徒がコンピューターなどのICT機器を学習に役立つように授業で使用している(教職員)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	計
全国	56.7	35.9	92.6
京都市	55.6	37.2	92.8
生徒	55.2	36.8	92
保護者	31.6	54.7	86.3
教職員	50	41.7	91.7

【考察】

全国、京都市に比べ若干低い数値になっている。現在GIGAスクール構想のもと、タブレットの持帰りを始めているが、学校と家庭とで効果的な学習が出来るよう、教職員の体制も進めていきたい。保護者が低い数値になっているのは、生徒が、学習以外でICT機器を使用し、夢中になることを懸念されていることに起因すると思われる。

Q、携帯電話・スマホ・コンピューターの使い方について学校や家の人と約束したことを守っている(生徒)

Q、子どもは携帯電話・スマホ・コンピューターの使い方について約束したことを守っている(保護者)

Q、生徒は携帯電話・スマホ・コンピューターの使い方について学校で約束したことを守っている(教職員)

	当てはまる	どちらかと言えば当てはまる	計
全国	32.2	37.3	69.5
京都市	27.8	40.6	68.4
生徒	39.7	47.8	87.5
保護者	25.6	48.4	74
教職員	4.1	79.2	83.3

【考察】

昨年同様、生徒は携帯電話・スマホ・コンピューターの使い方について、87.5%が約束を守っていると答えており、保護者については守っているが74%と隔たりがある。生徒、家庭、学校と正しいICT機器の使い方をしっかり話す必要がある。全国や京都市より高い数値になっているのは、保護者が家庭でICT機器の使い方を指導されていることで、この結果が出ていると考える。

